

特集

キーワードから読み解く

これからの精神医学・精神医療の10の潮流

特集にあたって

鈴木道雄*

精神科臨床に携わるうえで知っておきたい、近年研究が盛んに行われている、あるいは今後の発展が期待されるような、比較的新しく登場してきた精神医学・精神医療の領域の概念や用語などが多数存在します。本増大号では、第一に、これらの中で重要と考えられるものをキーワードとして幅広く取り上げ、それぞれが重視されるようになった背景（研究の進歩や社会の動向など）、臨床に与えるインパクト、課題や展望などを理解できるような解説付きのキーワード集とすることを意図しました。第二に、それらのキーワードから、現在から未来へと向かう精神医学・精神医療の潮流を読み解くことを試み、読者とともに考える材料としたいと考えました。

そのために、まず、本誌編集委員が知恵を出し合って、現代において重要と思われる78のキーワードを選出しました。次いで、それぞれのキーワードについて精神医学・精神医療の潮流の観点から検討し、複数のキーワードに共通する性質を取り出した結果、合計10の潮流を抽出できると考えられました。10の潮流とは、すなわち、①カテゴリー診断を超えて、②個別化、③発達・進化の視点、④新たな神経メカニズム、⑤IT精神医学、⑥当事者自身が取り組む治療、⑦ストレングス、⑧日常体験と精神医学、⑨共同創造、⑩社会のなかの精神医学、です。

これらを概観してみますと、潮流の①～⑤の5つは主として精神医学における潮流であり、精神疾患概念を問い直すもの（潮流①②③）と、精神疾患を対象とした新しい科学によるアプローチ（潮流④⑤）としてまとめられるでしょう。これに対して、潮流の⑥～⑩の5つは主として精神医療における潮流であり、当事者主体の精神医療（潮流⑥⑦⑧）と、社会の仕組みとしての精神医療（潮流⑨⑩）としてまとめられるでしょう。このような分類に従って目次を構成することとしました。

キーワードの選択における恣意性は否定できませんので、今回取り上げた78のキーワードが、取り上げるべき重要な概念や用語をすべて網羅しているとは言えないかもしれません。しかし、そのような限界はありながらも、本増大号が重要なキーワードの理解に役立つだけでなく、これからの精神医学・精神医療の潮流を知る有益な手がかりとなることを期待しています。

* 富山大学名誉教授/本誌編集委員